毎日通園でのリアルタイムの親支援
～システムの紹介～

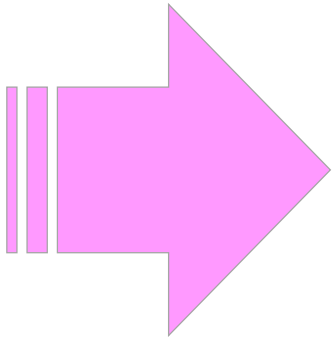
児童発達支援センター「すきっぷ」所長　　松山明美
地域生活支援課　福祉指導員　　山本涼子

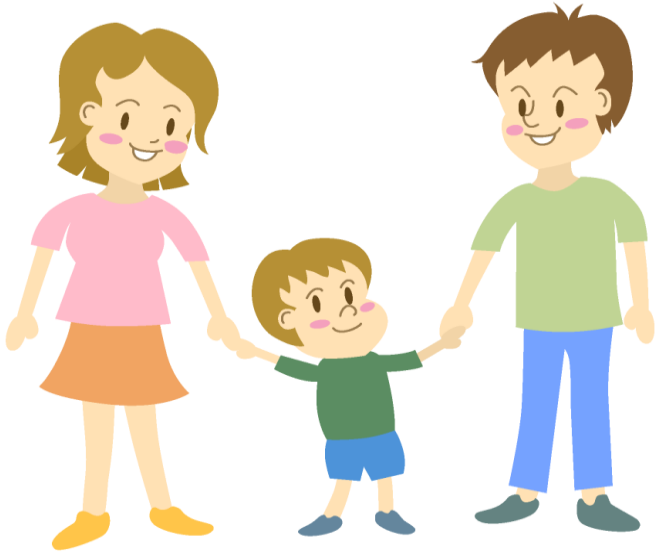
はじめに

コミュニケーションが取れない
特有の感覚
社会性における難しさ

＜親支援の必要性＞
不安に寄り添い、取り除き
前向きな子育てへ

「子どもが変われば親は変わる」





「親が変われば子どもは変わる」

楽しく前向きな子育て

すきっぷでの親支援のシステム

	内容	目的・狙い
送迎時の伝達	・登園：保護者からの伝達 ・降園：すきっぷからの全体伝達・個別伝達	・子どもの一日の状態を共有し家庭と連携 ・親が子どもを正しく知る ・親との信頼関係構築
連絡帳	・健康状態や生活リズムの確認 ・家庭での子どもの様子　・親の思い ・すきっぷでの様子	・親と担任が子どもについて共有 ・母親の考え方や関わり方の変化に気づく ・親子の変化を共有・共感
なんでもノート	・実習の視点・感想 ・家庭での過ごしの相談 ・何でも記入してもらい職員とやり取りする	・親が自由に使うノート ・「書く」ことで気持ちを吐露＝親を知る ・子育て記録として親が自身を振り返る
家庭訪問(毎年) ※全利用者対象	・子どもがすきっぷに慣れた頃 （5月下旬～6月上旬）	・「知る」 (家庭・環境・母親・家庭での親子関係) ・家庭での過ごし方のアドバイス
個別面談 （年４回）	・学期毎に個別支援計画・報告書を提示・共有 ・中間面談(10月)：家庭での様子や相談 ・必要に応じて随時実施	・個別支援計画の項目に沿った子どもの段階 ・日々の関わりの具体的な視点 ・子どもの「現在」を共有 ・親との信頼関係構築

すきっぷでの親支援のシステム

	内容	目的・狙い
親実習	一日クラスに直接入り、クラスの様子や集団の中での子の様子を見る。実習後面談あり。	・担任との関わりを見て、感じ、家庭で実践へつなげる ・集団の中での子どもの姿を知る・共有
親教室(月1回) クラス毎に 開催	・幼児期に大切にしたいこと（講義形式） （発達・感覚・特性・ADL・自信・意欲など） ・講義後感想などの話し合い ・児発管・心理士・管理者が講師(担任不参加)	・あるがままの我が子を受け入れる ・理解する視点を育てる ・これまでの親自身の関わりを振り返り、習得した知識を実践できるようにする。
保護者教室 （年1回） （父親・同居の祖父母対象）	・マジックミラールームからの支援公開 ・支援後感想を聞いたり、担任から「幼児期に大切にしたいこと」をテーマにした講義を行い、感想や思いを話し合う	・療育の理解や子どもへの共通理解を深める ・母親と一緒に楽しい子育てを意識する機会 ・父親同士のつながりや交流の場
支援見学 (年に３,４回)	・子どもの様子をマジックミラー室から見学 ・体育やプールは対面見学 ・必ず児発管や管理者から解説を入れ ・クラス状況や支援の意図、狙いを伝える	・支援内容を知る ・集団の中でのありのままの我が子を見て知る ・集団参加の様子を客観的に把握する

不安

辛さ

葛藤

＜すきっぷ＞

共感

寄り添う

アドバイス

実践に付き合う

Ⅰ．概要

- 対象ケース　Cさん　５歳児　　自閉症　軽度知的障害
- 家族構成：父・母・姉・Cさん
- 入園前の様子
  - ・市の子育て支援教室に週1回通う
  - ・多動　高いところに乗る
  - ・他者からの言葉かけへの反発：もの投げや叩き
  - ・外への飛び出しの多さ（家庭ではシャッター閉めっぱなし）
  - ・食事偏食が多く、ブームもあり
  - ・睡眠は寝つきが遅いときあり、昼寝あり

すきっぷの構成とスケジュール

・メンバー構成：10名（年長・年中・年少）
・3人の担任制
・９：００登園　１４:００降園

＜プログラムA、Bの内容の一部＞

«支援経過»　入園1年目　１学期

すきっぷ

◎着替えや歯磨き：自己流
⇒正しい手順ややり方の一貫性
◎食事⇒折り合い・スモールステップ
⇒褒められる経験
◎スキンシップ大好き

すきっぷ
で
「できた！」

家庭でも
「できた！」

家庭

◎着替えを一人でできる
◎食事で折り合える
⇒褒められる経験
◎絵本を母と楽しく見る
◎待てる姿
◎家族で楽しく外出

家族に褒められる経験
家族と楽しさを共有できる

＜課題＞
●集団参加できる
→隙を見ての逸脱多い
●遊び→危険・園周外への逸脱狙い
●苦手な遊び(イメージする遊び)
→もの投げ・逸脱・離席
●順番→カード使用で待てるが
取り組み後離席

＜課題＞
●母との買い物
→たくさんかごに入れる
→会計時に外に走り出す
⇒一時的に中止
●外への飛び出し
→減少するが根強い課題

«支援経過»　　入園1年目　1学期

- 家庭訪問（6月）

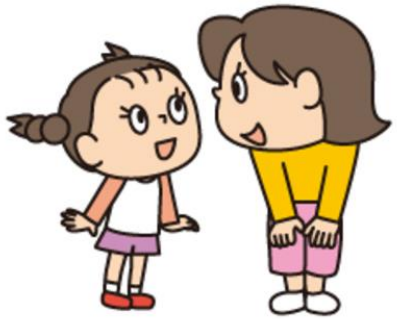
「父のことを本人は怖がっていたが、入園後は本人との交流が増え、かわいがるようになった」

「姉の関わりがしつこくてCさんが手出しに至ることがある」

「勝手に外に行ってしまうことが一番困る。母の隙を見て行ってしまう」

- 個別面談（8月）

母「今までは本人のマイナスな面しか見れなかったが、プラスをたくさん見れるようになった。言葉の理解が進み、お互いの思いが少しずつ分かり合えるようになってきて、折り合えるようになった」



Cさんの可能性（成功経験）を見出した時期

«支援経過»　入園1年目　２学期

すきっぷ

◎集団参加が確実
◎食事：食べられるもの増
　　⇒褒められる経験
◎担任と一緒にモノで遊べる
◎外遊び：担任を誘う
◎担任の指摘に神妙な表情

大人と
一緒が楽しい

家庭

◎褒められることを期待して
　食べる・着替える
◎事前の約束（手をつなぐ・
　留守番）を受け入れる
◎父に遊びを自ら求める

大人との肯定的な関わり
信頼関係の構築

＜課題＞
●イレギュラーに混乱→拒否・号泣
●こだわりの強まり
→担任の全体指示に動かない・遅れる
→パターン化
⇒折り合いの必要性

＜課題＞
●イレギュラーの影響
　→指摘に対して拒否・号泣
●トイレ以外での排便
●外への飛び出し
　　：「疲れていたよう」
背景を捉えようとする姿勢

«支援経過»　入園1年目　２学期

- 父実習（９月）

「（Cさんが）家庭でも関わりを求めてくることが増え、
コミュニケーションが取れるようになった」
「これまでは、本人の行動の意図が分からず、癇癪も多く、強く怒ることもあった」

- 個別面談（１０月）：大人と遊ぶ時「自分本位が多い」
担任：折り合いの必要性を説く
⇒母「今しっかりやらないと」

育ちを評価しつつも課題を客観的に捉えた時期

- 個別面談（１２月）：居住地交流での経験から
「幼稚園に行かせたいと思った自分にゾッとして怖くなるくらい」

«支援経過»　入園1年目　３学期

すきっぷ

◎他児の泣き
　→「先生！」と頼る
◎製作活動でできた作品
　→「みて！」と担任に報告
◎運動系の新しいプログラム
　→「先生と一緒」を受け入れる

家庭

◎姉や父に遊びを求める
◎外での遊びが充実
◎言葉で聞く、確認する姿勢
◎絵カードの活用
　⇒登園渋りの改善

大人を頼る
大人と楽しむ
大人に確認

大人の話を受け入れる態度
信頼関係の深まり

＜課題＞
●拒否や反発となった担任とのやり取り
　→パターン化
　⇒動作づけ
　→長泣き後「先生、ごめんね」
　→パターンが和らぐ

＜課題＞
●外への飛び出し
●トイレ以外での排尿・排便
→止めると別の場所へ転化
⇒淡々と処理しやりとりしない

«支援経過»　入園1年目　３学期

- 個別面談（3月）

「とっても成長した一年。
人との関わりが増えて自分の領域に大人が介入しても
受け入れてくれるようになった。
座って待てるようになった。
普通に歩く姿が見られるようになった。
家族で楽しく過ごせる時間が増えた」

「Cさんに適した療育が何かをきちんと考えなければいけない気持ちになった」

Cさんの過ごしへのカードの活用を含め
「分かりやすさ」へのアプローチを始めた時期

«支援経過»　４）入園２年目　１学期

すきっぷ

◎目的を理解した行動（要見守り）
◎予定変更は絵カード活用
　⇒自身で切り替える姿
◎外遊び：危険な遊び減少
◎喜びや行動を言葉で表現

＜課題＞
●天候急変による不安定さ
●甘えがエスカレート：目的逸れ
●独り言多く、快の共有難しい
●就学前検査：多動で落ち着かず

家庭

◎登園時ダッシュ：やり直し
◎外遊び：母主導で切り上げ
◎本人の状態を見て過ごしを変更
◎姉の友達の出入り：家族会議
◎支援学校見学：カード活用
◎「自転車やりたい」の思い
　：母「やらないよ」大泣き・折り合う

実践的アプローチから
本人への理解の深まり

＜課題＞
●外への飛び出しあり
　（排泄面の課題消失）
●放デイ見学：多動で落ち着かず

今の安定が環境や人間関係によるものと確認・共有

«支援経過»　入園２年目　１学期

- 家庭訪問（５月）

  家庭でのカードの使用の仕方を実際に確認、よりよいカードの使い方を考える

  視覚提示による過ごしの組み立てをより精査していく方針を共有

  「この一年が勝負ですね」と母

- 個別面談（8月）

  「これまでは本人の特性が強すぎてどうしたらいいかわからなかった。

  甘やかしっぱなしだった。でも先生や父と話している中で、

  事の善悪をしっかり伝えていけるようになった。

  家族でも姉を含めて意見交換しながら決めていけるようになった。

  今が家族としてとても幸せです。

  これまで感じられなかった『人間らしさ』を本人に感じる」

Cさんの「分かりやすい」「安心する」過ごしの組み立てのための実践が深まった時期

«支援経過»　入園２年目　２学期

すきっぷ

◎製作：分からなくなると「先生！」
◎不安定な時
　⇒求めすぎずで時間経過で整う
◎他児のトランポリンを見て、
　　「先生、やる」
◎他児の泣き：「先生、抱っこして」

＜課題＞
●イレギュラーへの不安定さ
●ルーティンへの固執⇒介入の必要
（決まった人との決まったやり取り）
●こだわりの強さ
　　⇒折り合う経験

家庭

◎家庭内での遊び充実
◎「気づき」
　　：家族旅行（詰め込みすぎ）
　　：長時間YouTube視聴
　　：睡眠の質＝状態
◎支援学校落選
　　：医療調整への段取り
◎学校見学での見極め

「気づき」から状態に合わせた過ごしを組み立てた時期

＜課題＞
●外への飛び出し
●こだわりの強化・転化
　（絨毯のめくれ・携帯充電・音）

«支援経過»　入園２年目　３学期

家庭

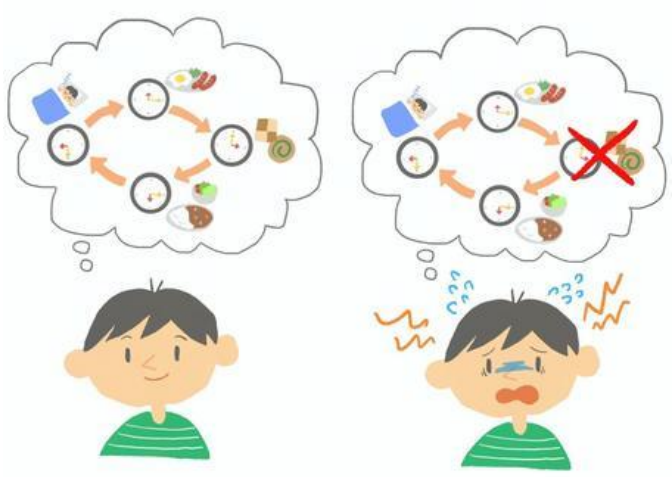
・冬休み：「スケジュールが明確でないからどことなくフワフワしている」
「家の中だけだとこもってしまうので、
外遊びは必ず入れていこうと思います」

・休日の過ごし：「見通しが持てないから外に出ることが多い。過ごしを決めたい」
（すべてカード提示すると窮屈になる。午前午後の過ごしの軸を決めてみては？）

・医療調整に向けての錠剤服用練習：母がトライし、見事成功

・連絡帳に睡眠の質の記載が増える

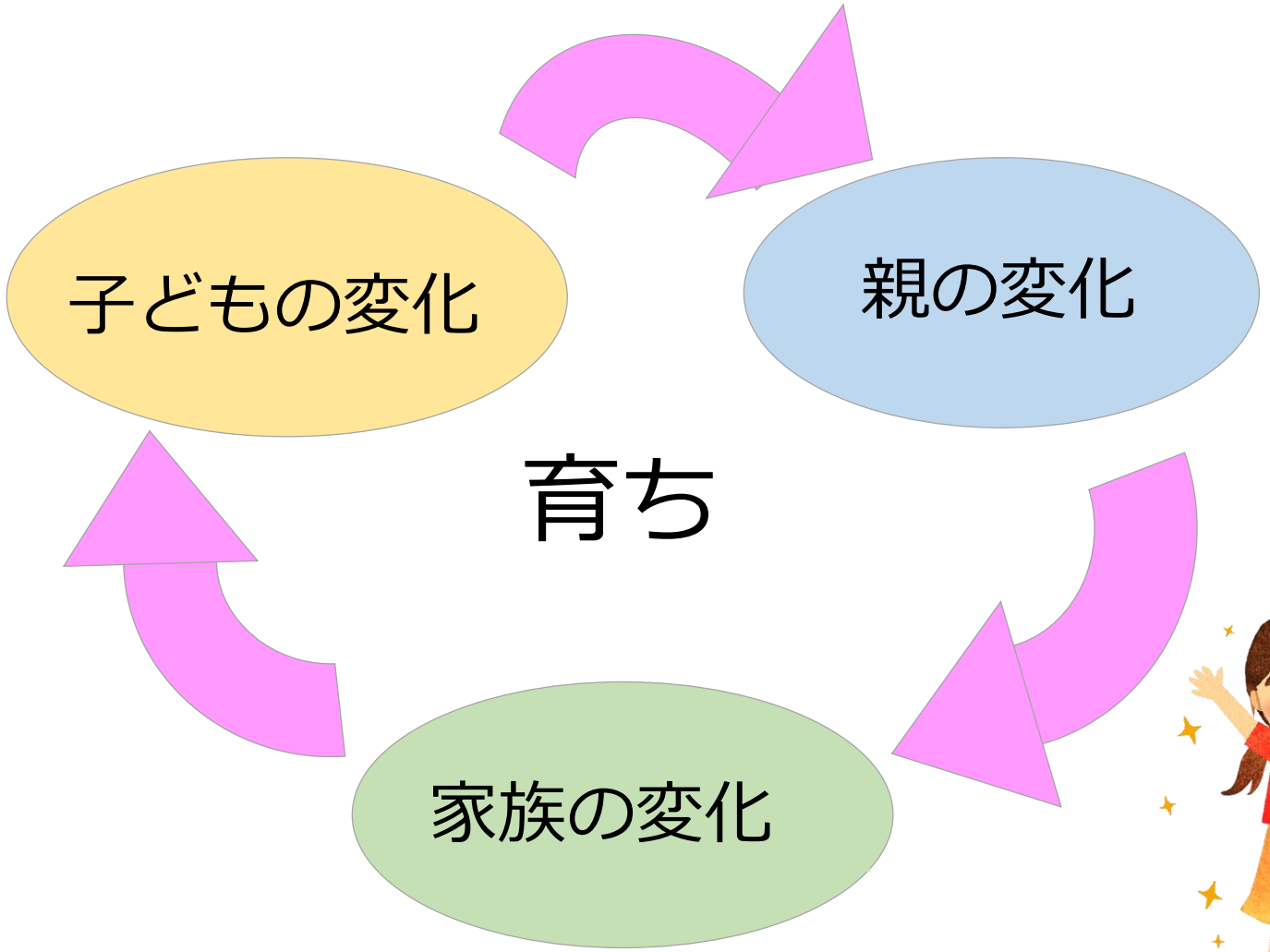
母が主体的に過ごしを
組み立てた時期



Cさんと家族の歩み

	すきっぷでのCさんへの支援と様子	家庭での様子
年中１学期	「分かりやすさ」から安心の育み 折り合いや褒められる経験 見通し（カード活用）から待てる姿	＜Cさんの可能性(成功経験）を見出した時期＞ ADLを通して褒められる経験 家族で楽しさを共有
２学期	「担任と一緒」を楽しむ ：信頼関係構築 イレギュラーによる不安定さ	＜育ちを評価しつつも課題を客観的に捉えた時期＞ 事前の約束を受け入れる イレギュラーにおける不安定さ
３学期	大人の話を受け入れる態度 折り合う経験	＜Cさんへの実践的アプローチ導入期＞ カードの活用 課題行動へのアプローチの見極め
年長１学期	カード活用で予定変更を受け止める 担任の支えで気持ちを切り替える	＜Cさんへの実践的アプローチが深まった時期＞ ・姉の友達の出入り：家族会議 ・支援学校：写真カード活用
２学期	担任を頼る：信頼関係の深まり こだわりへの介入 →折り合う経験	〈「気づき」から状態に合わせた過ごしを組み立てた時期〉 ・睡眠の質　・学校選びでの見極め ・医療調整への段取り
３学期	イレギュラーによる不安定さ 信頼関係の強い担任を軸とした安定 医療支援	＜母が主体的にCさんの過ごしを組み立てた時期＞ ・外遊びを上手く活用する ・休日の過ごしの組み立て

それぞれの育ちに大切だったこと
～子ども・親・家族～



それぞれの育ちに大切だったこと～子ども・親・家族～

１）子どもの育ちに大切だったこと

すきっぷでの支援

決まった流れでの生活
絵・写真カード使用

構造化と視覚支援

一貫した手順ややり方を繰り返す
食事：折り合い・スモールステップ

成功経験
褒められる経験
（ADL技能獲得）

楽しさ・嬉しさの共有
折り合う

担任との信頼関係

安心

自信・意欲

大人の話を
受け入れる

＜家庭＞
安心
褒められる経験
折り合う

２）「親育ち」ために大切だったこと～毎日の伝達～

毎日の伝達

家庭での様子（睡眠・食事・排泄・疲労感など）
家族の様子
すきっぷでの様子

知る・共有

理解

主体的な子育て

実践を支える

気付き

・サポートの仕方を細かく説明
・トライ＆エラーを繰り返す
・課題の妥当性の見極め

・「当たり前」への違和感・気づき
・伝え続けていくことの価値

２）親育ちために大切だったこと～個別面談・家庭訪問～

個別面談

振り返り

・これまでの育ちやそこに至るまでの配慮の確認
・「今」を共有し「これから」に向けて一緒に考える機会
・これまでの子育てや家族を含めた話

家庭訪問

知る・見る
実践へのアプローチ

・家庭の中での本人の過ごしを確認
・家族内の状況を見たり、聞ける機会
・カード活用への現実的アプローチ

３）家族が育つということ

Cさん

＜すきっぷ＞
構造化支援
成功経験
褒められる経験
大人との信頼関係

安心

自信
意欲

大人の話を
受け入れる

家族

楽しさの共有
理解
折り合う

自信・幸せ

親

実践

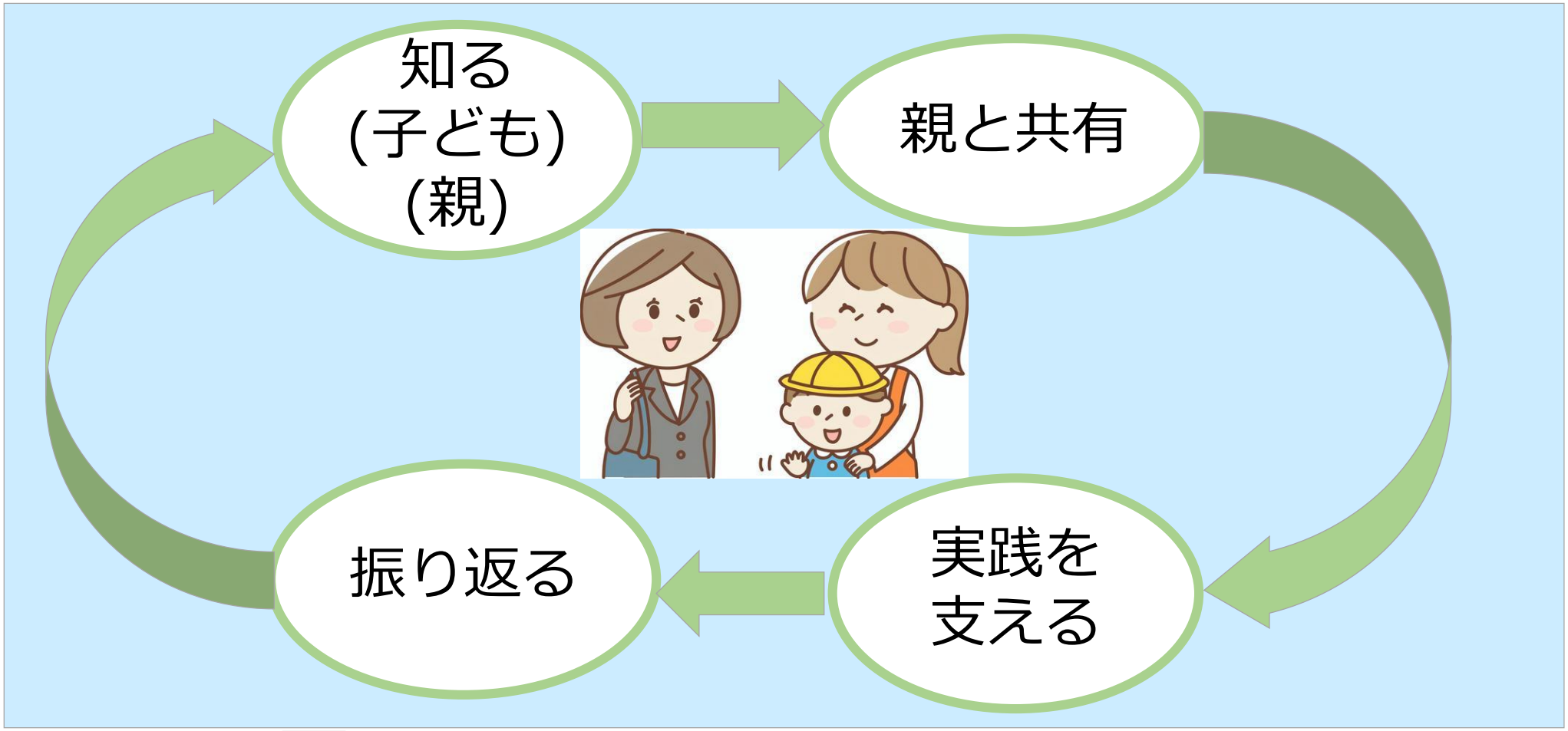
手応え

気付き

理解

＜すきっぷ＞
毎日の伝達
個別面談
家庭訪問

まとめ



気付き
理解

自信
前向きに歩む「力」

おわりに

子ども

＜円満な人格形成＞
安心
信頼
自信
自分の力を発揮

すきっぷ

・毎日の支援に親支援を意識
・親との信頼関係構築
・親のペースに合わせた支援
・親に直接向き合い表情を見て話す
　＝親が子どもにしっかり向き合うため

親

子どものありのままの姿を受容
子どもを愛し笑顔の多い子育て